

令和3年度 中部森林管理局 国有林野等所在市町村長有志協議会 連絡協議会  
意見交換の概要

開催日時：令和3年11月22日（月）14：00～17：00

開催場所：中部森林管理局 3階 大会議室

出席者：南砺市長、木島平村長、朝日村長、上田市森林整備課長、伊那市長、木祖村  
長、高山市長、下呂市長、中津川市長、設楽町長

以上10地区代表ほか10名出席

発言要旨	回答
1. 治山事業の推進	
今年の8月の大雨により、林道がズタズタになっており、崖崩れも起きていた。水源地を守るために積極的な治山事業を行っていただきたい。	優先度を勘案し、治山事業に取り組んでまいりたい。 積極的に治山事業を行うためには、林野庁と国交省の情報共有の強化が必要だと考えている。
2. 官行造林について	
官行造林地が非常に山深く、急峻な地形であることから、搬出困難のため採算性が見込めず、主伐はできない。契約終了に向けてご配慮いただきたい。	契約終了に向けて、協議をさせていただくので、不明な点があればいつでもご相談いただきたい。
3. ニホンジカ等獣害対策について	
高山植物の食害予防のために毎年ネットを張っており、シカの食害被害を受けた地に植生が戻ってきている。しかし、ニホンジカの個体調整をしないと守りの対策だけになるため、くくりわなを活用する等、様々な取り組みを進めている。	鳥獣特措法が今年度改正され、捕獲の強化及び広域連携に取り組む考えである。まだ具体化はできていないが、農政局とも連携して捕獲していきたい。

4. 林業労働力の確保	
<p>① 人が森林を手入れし続けるためには、森林に関わる仕事が必要ではない。また、未来の子供たちになぜ森林を守るべきなのかを伝えることが我々の使命だと思う。</p> <p>② 林業従事者の安定的な確保のために、安全対策の徹底、安心して働ける現場づくりに努める必要がある。</p> <p>③ 女学生と意見交換をした際に将来の夢を聞いたら、森林管理に関わる仕事がしたいと言っていた。森林・林業の将来を担う若者は必ず存在する。</p>	<p>我々もそのような気持ちで、森林・林業施策を進めてまいりたい。</p> <p>林業従事者が減少していく現状で、緑の雇用などを通じて確保していきたい。また、日本全体でも人口が減少している中で、伐採から再生林、保育の収支のプラス転換を図る新しい林業を模索しているところである。</p>
5. 森林経営管理制度、森林環境譲与税について	
<p>① 人口が少ない小さな村には森林環境譲与税の額が少ないというのはどうかしていただきたい。</p> <p>② 今年から森林経営管理制度を本格的に取り組み、来年度から具体的な作業に入る。</p> <p>③ 中部局の実務研修に経験の浅い林務担当職員を参加させていただいた。今後も受け入れを継続していただきたい。</p>	<p>① 森林環境譲与税は始まったばかり。「森林整備の効果等を検証しつつ、必要に応じて譲与基準の見直しを行うこと」が附帯決議に盛り込まれている。</p> <p>② ご不明な点があれば林野庁森林集積推進室や中部森林管理局にご質問をお願いします。</p> <p>③ 今後も研修内容を充実し実施したいと考えているため、市町村職員の積極的なご参加をお願いしたい。</p>
6. 木材の搬出について	
<p>材を出すために路網が必要となるため、路網整備に予算を回さざるを得ない状況であり、本来使いたい事業に予算を回せていない。高性能でコンパクトな架線集材の自動システムを積極的に導入し、各地で講習会等を行っていただきたい。</p>	<p>地形に合った出材方法を試行していかなければならないと考えている。架線技術者の育成にも可能な限り対応していきたい。架線集材に関しては、自動で集材するロージンググラップルなどの開発も行われている。</p>

7. 災害対応について	
<p>① 災害時に国土交通省の TEC-FORCE のような形で支援していただきたい。</p> <p>② 災害査定の際に市の職員だけでは足りないのご支援・ご教示いただきたい。</p>	<p>① 林野庁においても、災害の際に森林土木技術者等の派遣を実施しているため、必要な際は、ご相談いただきたい。</p> <p>② 林道の査定については支援を行っている。災害の査定処理について林野庁から派遣した技術者が支援をすることもある。</p>
8. 全体	
	<p>国有林としては、市町村と情報を共有して、国有林の持っている技術により様々な場面で支援していきたい。</p>